

私たちにできること

浦安市立富岡小学校 五年 田代 はるの

私は毎年、栃木県の祖父から季節ごとにいろいろな果物が送られてきます。一番最近では福島県のりんごが一箱とどきました。それを食べてみると、とてもシャキシャキしていて、あまくておいしかったです。ほかには、もも、ぶどう、かきなどです。それも全て福島県産です。

福島県は、東日本大しん災の時に大きなひ害を受けて、その後も放しや性物質などが広がってしまい、そこに住めなくなったり、農作物なども食べられなくなってしまうたと親から聞きました。農家の人が一生けん命作った物が食べれなくなったり、売れなくなったりしてとても残念だし、かわいそうだと思います。その後、安全が確にんされてもへん見や、思いこみで食べなかつたり、買わなかつたりする人もいたそうです。どうして栃木県にもおいしい果物がたくさんあるのに福島県産ばかり送ってくるのか、とき問に思いました。親に聞いてみると、祖父は福島県を応援しているからだと言っていました。

「桃栗三年、柿八年」ということわざがあります。種をまいてから実がなるまで桃や栗は三年、柿は8年かかるという意味です。実際それぐらいかかるそうです。スーパーに行けばいつでも置いてある果物は、農家の人たちが一つ一つ手間をかけて一生けん命作ってくれていることを副読本からも知りました。

今回改めて果物のことについて考えてみたら、今まで何も考えずにおいしく食べていた福島県産の果物のありがたさや、自分も少しは協力できているのかなと思えました。次はもつとしやを広げて様々な地いきの果物もたくさん食べてみたいです。